

平成28年12月14日

平成28年は申年、猿が主役にもなる平塚市内の庚申塔を紹介します(2回)

(3) 平塚市内の庚申塔の要約

(1) 市内の庚申塔の地区別の総数と主な内訳

地区/区分	数量総計	青面金剛	文字塔	猿有り	道標有	一番古い年代
平塚	34	13	8	23	4	1660
大野	20	9	7	12	3	1670
豊田	9	1	0	8	0	1662
神田	12	2	8	3	3	1664
城島	22	2	11	9	7	1656
岡崎	9	1	5	4	4	1697
金田	14	1	7	7	3	1663
金目	15	1	1	11	1	1662
土沢	28	11	2	24	0	1667
旭	16	8	2	14	0	1665
計	179	49	51	115	25	

上記の表より庚申塔の60%以上に猿が彫られています。それに対して鶏は数基あるのみです。青面金剛は旧市内の平塚、旭、土沢と市内の南部に偏っています。

(1) 市内の庚申塔で「青面金剛と両脇に猿」は2基で県の指定文化財

写真の庚申塔は札幌町の長楽寺境内にあります。年記は不明ですが、次に記す正福寺のものと同型で同時代と見做されます。その大島の正福寺の本堂前にあり、制作年は明暦2年(1656)です。青面金剛が日本で最初に彫られた(初出と云う)もので、平塚近辺の茅ヶ崎市に3基、藤沢市に1基、寒川町の1基を合わせ7基です。いずれもが県指定の有形文化財に平成18年に指定されています。

この形は寒川町大曲の下大曲神社にあったものが初出で^{おおまがりかた}大曲型と云われています。現在は寒川町の申し出により寒川神社の資料館で展示されています。



(3) 正面に三猿の初出は上平塚の八雲神社

三猿が最初に市内で建立されたのは万治3年(1660)、正面には青面金剛の種子の「ウーン」を上段に、続いて「奉待庚申供養二世安楽所」と彫られています。「見ざる・言わざる・聞かざる」の三猿の最初で、姿勢は中腰で躍動的です。



(4) 龍前院型三猿庚申塔

茅ヶ崎市浜之郷の龍前院に明暦3年(1657)初出で龍前院型と呼ばれています。市内では写真の豊田打間木662の路傍が初出で、寛文2年(1662)に建立、続いて大島の正福寺境内(寛文3年)が続き全部で4基あります。



(5) 四角柱の三面に各々一猿を彫った庚申塔

初出は大神の寄木神社にあり、寛文4年(1664)塔全体の高さは3米弱で庚申塔では最大のものです。残念ながら右面の猿は消失し、現在は2猿です。

写真は翌年に出縄の個人の屋敷内に造立された塔で、四面に山王二十一仏の種子(日吉神社の二十一社の本地仏)が彫られています。

山王二十一仏を刻む庚申塔は寛文年間に北金目の天徳寺、横内の神田寺と合わせて3基あり、山王信仰と庚申信仰が深く関係していたと思われます。



(注記)

市内の庚申塔の種類別初出を整理すると、江戸時代初期に四臂(腕が4本)の青面金剛と二猿、庚申供養の文字と三猿、六臂の青面金剛と三猿、後半は文字塔です。

(6) 珍しい庚申塔の紹介

① 青面金剛の眷属の多様と三猿に雌雄の区別

立野町の晴雲寺の山門を入った右側に青面金剛と三猿の庚申塔があります。上部に日月、頭にとくろに觸髻を巻き、手には三叉鉞、けんじやく縹索等、両脇に二童子、二鶏で下の三猿は右より雄・雌・雄を区別した彫りとなっています。

造立は延宝6年(1678)で青面金剛と三猿像では市内最古のものです。

『陀羅尼集経』に青面金剛の儀軌(仏像などの図像の約束)によると「青面金剛は腕が4本、目が三つ、鬼の上に立ち、二人の童子と四人夜叉、顔は怒り、額に觸髻の首飾りを巻く」などと説かれています。



② 三猿がピラミット型に配置したもの

札幌町の長楽寺境内に青面金剛の種子「ウーン」を彫り、雌猿と思われる間かざるが上に乗りに見ざると言わざるが支えています。造立は貞享4年(1687)です。



③ 市内で一番新しい庚申塔

四之宮5-11-37付近の路傍に大正2年(1913)に造立された青面金剛を彫った庚申塔です。造立者11名が彫られています。

青面金剛の持ち物は左手に戟、下に宝剣。右手に輪宝、下は縹索です。



参考文献：・平塚市博物館 2014年『平塚の石仏 3058の祈りと願い』
・平塚市博物館 1998年『平塚の石仏 改訂版1 平塚地区編』
～2015年『平塚の石仏 改訂版10 土沢地区編』の10巻。